

# 中学校第1学年 国語科学習指導案

## 1 単元名 登場人物の思いがわかるポップを作ろう

教材名 「大人になれなかった弟たちに」米倉 齊加年（光村図書 国語1）

## 2 単元とその指導

### (1) 生徒観

朝の読書の時間を使って本を読む機会はあるものの、教科書教材に出てくるような文学的文章を読むことは少ない。文学的文章については前単元の学習において、心情の分かる言葉や感情の変化が分かる行動などを抜き出して表にまとめる活動を行った。また、「ポップづくり」などの言語活動はモデルを示されたり、やり方を学習したりしたあとで構想を立てるのに時間を要し、実際の活動に取り掛かるのが遅い。

### (2) 教材観

本教材は、絵本ということで易しい言葉で表現されている。淡々とした表現が続き、現代の子どもたちには想像もつきにくい戦争の厳しい状況が描かれている。挿絵の表情にも当時の暗さが感じられ、戦争という特殊な状況の下で、なすすべなく死に直面する母と兄の思いが切々と伝わってくる。母が子を思う気持ちや兄が弟を思う気持ちを読み取り、兄の気持ちが作者の気持ちであることを理解しながら、作品全体を通して作者の思いを読み取らせたい。

### (3) 指導観

まず、学習計画を立てる中で、文学的文章を学習する手順を確認する。

- (ア) 全文を読む。
- (イ) 新出漢字や読めない漢字を確認する。
- (ウ) 語句の意味を調べる。
- (エ) 登場人物を確認する。
- (オ) プリントで内容把握を行う。
- (カ) 登場人物の心情をとらえる。
- (キ) 物語についての感想を書く。
- (ク) 感想を発表し合う。

以上が1つの学習パターンであることを示し、今回の学習での力点を確認する。今回は戦争という特殊な状況が背景になるので、「(ウ) 語句の意味を調べる。」活動で「戦争」に関する語句を集めさせ、補助資料を提示することで時代背景を知ることが作品理解につながることを意識させたい。

「(エ) 登場人物を確認する。」活動では主となる登場人物、母と兄に注目させ、「(カ) 登場人物の心情をとらえる。」活動において心情をとらえる方法として、自分が最も心に残った登場人物の思いがわかる1文を提示させ、その理由を考えさせる。そこで、学習のねらいを踏まえた言語活動として「ポップづくり」を設定する。ポップに必要な心情や情景の描写を引用することや、その理由を紹介の表現様式に合わせてまとめることに、必然性をもって取り組むようにさせたい。単元の終末では作ったポップをグループ内で発表し合い、それぞれの感じ方や表現方法についての交流を図りたい。

最後に、自己評価表で学んだことや単元を通して身に付いた力を確認させることで、文学的文章を読み進めていく意欲や自分で図書を選択する意識をはぐくみたいと考える。

(4) 言語活動について

ア ポップづくり

(ア) 登場人物の心情が表れている表現を探し、その表現について自分なりの考えをもつ。

(イ) 本を紹介するという形式や表現様式に合わせて書き換える。

→文学的文章を読み取る方法を理解し、選んだ表現についての自分の考えの根拠を文中や自己の経験から見つけ出す。

→紹介するための表現に書き換えるために文末表現や言葉の吟味をする。

→ポップそのものの様式を知ること、文字数の制限や挿絵等と文の効果的な利用・配置を考える必要がある。

3 単元の指導目標

場面の状況や登場人物の心情などを読み取らせ、作品を味わわせる。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	ア 戦争に関する語句を抜き出し、調べようとしている。 【「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(1)イ(ウ)】
読む能力	イ 登場人物の心情に焦点をあてて内容をとらえている。 【C「読むこと」ウ】 ウ ポップの中に作者の思いがわかる表現を使っている。 【C「読むこと」ウ】

5 単元計画(全6時間 本時6/6)

次	主な学習活動	教師の指導・支援	評価とその方法
1 ①	○学習計画を立てる。 ○新出漢字を確認する。 ○戦争に関する語句を抜き出し、意味を調べる。	○「麦わら帽子」で学習した読みの方法を想起させる。 ○新出漢字をノートに書かせる。 ○語句の意味調べをさせる。	ア 戦争に関する語句の意味を調べようとしている。 【観察】 【プリント】
2 ② ③ ④ ⑤	○～P87の3行目までの内容をとらえる。 ○P87の4行目～最後までに内容をとらえる。 ○最も印象に残った1文に線を引く。 ○最も印象に残った理由をグループで話し合う。	○当時の状況を説明し、ひもじさについてもとらえさせる。 ○母に関する記述と疎開先での生活、弟の死についてとらえさせる。 ○題名やカタカナ表記について考察させる。 ○選んだ根拠も出し合うようにさせる。	イ 人物の心情に焦点をあてて内容をとらえている。 【観察】 イ 1文を選び、線を引いている。 【発表】 イ 理由を発表している。 【観察】

	○感想を 100 字程度で書く。	○登場人物の思いや作者の思いを踏まえて感想を書かせる。	
3 ⑥ (本時)	○ポップについて知る。 ○前次の 1 文を使ったポップを作る。(100 字以内) ○学習活動を振り返り自己評価をする。	○ポップについて説明, 例を示す。 ○1 文について, グループで話し合ったことを想起させる。 ○ポップづくりを振り返り, 必要となる力を黒板で整理する。	ウ 1 文を使ってポップを書いている。  【作品】

## 6 本時の指導

### (1) 本時の指導目標

最も印象に残った 1 文から登場人物や作者の思いを考えさせる。

### (2) 本時の展開 (6 / 6)

過程	学習活動	教師の指導・支援 *評価
導 入	1 これまでの活動を想起し, 最も印象に残った 1 文を確認する。  2 ポップづくりについて確認する。	○最も印象に残った 1 文を音読させ, 選んだ根拠について数名に発表させる。  ○書店で本を選ぶ際, ポップが重要な役割を果たしていることについて, 経験談を交えて話す。
	登場人物や作者の思いが分かるポップを作ろう。	
展  開	3 前時までの内容把握のため, プリントや感想文で赤線が引いてあるところを確認する。  4 ポップを作る。  (1) ポップについてイメージをもつ。  (2) 100 字以内でポップを作る。	○前時に書いた感想文で赤線が引いてあるところ(登場人物や作者の思いに触れているところ)をポップづくりに生かすように促す。  *赤線が引いてあるところを確認している。 【観察】  ○実際の書店にあったポップを紹介する。  ○印象に残った 1 文を書き, 感想文の中から言葉を選んだり, 削ったりしながら作るという手順をモデルとして示す。  ○ポップに書く文の例をいくつか紹介する。 例・これは実際にあったことなのです。 例・平和について考えましょう。

		<p>○必ず文章にしなくてもよいことを知らせる。</p> <p>*100字以内で、選んだ1文や感想文を用いて登場人物の思いや作者の思いがわかるような表現ができています。</p> <p style="text-align: right;">【作品】</p>
終末	5 学習を振り返り、自己評価表を記入する。	<p>○ポップづくりを振り返り、必要となる力を黒板で整理する。</p> <p>○出来上がったポップは教室内に掲示することを知らせる</p>